



動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合

〒260-0017 千葉市中央区要町2番8号(DC会館)

電話 (鉄電) 千葉 2935・2939 番
(公) 043(222)7207 番
FAX 043(224)7197 番

2000.11.10 No. 5223

日比谷野音に3250名

「四党合意」を粉碎するぞ!

十一・五労働者 集会報告

11月5日、東京日比谷野音で「たたかう労働組合の全国ネットワークをつくろう!」を掲げて全国労働者総決起集会が開催された。今年で三回目を迎えるこの集会は三組合の呼びかけに応じて11・5集会実行委員会がつくられその主催で行なわれた。



参加人数も昨年を上回る3250名が結集した。

集会は、動労水戸の国分委員長、港合同の大野さんの司会で進められた。最初に主催者を代表して動労千葉の中野委員長が開会挨拶を行なった。中野委員長は、「三組合が呼びかけるこの集会も三回目を数える。影響力も拡大し、注目もされている。この集会の第一の任務は、1047名闘争―国鉄闘争の勝利を勝ち取ることである。5・30以来、臨時大会二回、定期大会と「四党合意」を粉碎してきた。「四党合意」は、分割・民営化以来のたいへんな攻撃だ。その攻撃を3分の1の勢力で粉碎してきた。全参加者が国鉄闘争勝利のために全力を振り絞る事だ。第二は日本の多くの労働者が勝手にリストラされ、首を切られ権利を剥脱される状況にいる。ナショナルセンターは資本の救済者に成り下がっている。核心は労働者が団結して敵に対して反撃を開始することだ。

第三は、政治をはじめあらゆるものがガタガタになっている。この状況のなかで敵は九九年のガイドライン法の成立から教育基本法の改悪、憲法改悪へと突き進もうとしている。また、JR総連も自民党も全部中核がガタガタになっている。私たちの絶好のチャンスが訪れた。本日の集会がその大きな突破口になる」と集会の任務を明らかにした。



連帯の挨拶は早稲田大学の名誉教授の佐藤昭夫さん、元学習院大学教授宮島尚史さん、作家の宮崎学さん、百万人署名運動の小田原紀雄さん、弁護士鈴木達夫さんが行なった。それぞれ国労の「四党合意」問題に触れ、「四党合意」は闘争団の切り捨てであり、この「四党合意」を不当労働行為として労働委員会闘争が始まった。この闘争に勝利しようと呼びかけた。

国鉄闘争の勝利 をかちとろう

呼びかけ三組合の訴えは港合同の辻岡執行委員、関生の増田執行委員、動労千葉の田中書記長がそれぞれ提起した。(内容は次号の日刊に掲載します)

埼玉の大倉電機と北海道・九州の国労闘争団からのメッセ―ジ紹介の後、特別報告として国労闘争団と「四党合意」撤回地労委闘争を闘う国労組合員、沖縄上京団と広島教組が行なった。国労の仲間には闘争団と地労委への申し込人が壇上に上がり、「四党合意」粉碎の闘いの経過―五・三〇から二回の臨時大会、一票投票、定期大会へと続く国労闘争団の闘いの報告がされた。また、「四党合意」を不当労働行為として労働委員会に提訴して闘うことが決意表明された。沖縄上京団は、サミット闘争勝利の報告を広島からは「日の丸・君が代」反対の闘いの報告がされた。

カンパアピールに続いて決意表明を東京の地域合同労組、自治労、全金本山、関西合同労組、全通、医療、化学、ED労組、の各組合から受けた。

閉会の挨拶は関生の錦戸副委員長が「今の労働組合は本来の労働運動の一定の社会的使命を忘れて敵と退治することを忘れてきている。闘う仲間が違いをのりこえて大同団結しなければならぬ。原点に立ち返り闘おう」とまとめ、最後に港合同の中村副委員長長のインターナショナルと団結ガンバローで終了した。

集会後は日比谷公園から常磐橋公園までを呼びかけ三組合と賛同労組を先頭にデモ行進し、たたかう労働組合の全国ネットワークへの結集を訴えてきた。